

有名なことば集

(小鮎牧師の好きな言葉です。これら以外は“なんでもあり”コーナー等でどうぞ)

ワイツゼッカー元大統領

< 1986年5月8日 ドイツ議会でいった「荒野の四十年」と題する演説の中の一節 >
老人も若い人もすべてのドイツ人が過去の責任を引き受けなければならない。
「過去に目を閉ざすものは、現在に対しても盲目となる。」
そして(人間は)同じ過ちを繰り返しがちである。

「ユネスコ憲章前文」より

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed;

UNESCO = 「国際連合教育科学文化機関」

(United Nations Educational Scientific and Cultural Organization の略)

ユネスコは教育・科学・文化の面で国際協力を進めながら、世界平和を実現していく機関。

1945年11月、悲劇を巻き起こした第二次世界大戦への反省にたち、二度と人間が同じ過ちをおかさないようにとの願いを込めて創設された。

本部はフランス・パリ。日本ユネスコ協会は1951年7月に第60番目の加盟国として加盟した。

現加盟国は188カ国(2008年現在)。日本では文部科学省内に「日本ユネスコ国内委員会」が設置されている。

CHRIST is the HEAD
of this house

キリストは、この家の主

THE UNSEEN GUEST
at every meal

食卓ごとの見えざる客

THE SILENT LISTNER
in every conversation

語らいのときの静かなる聴き手なり

ヘルマン・ホイヴェルス(Hermann Heuvers)神父

1890年(明治23年)8月31日ドイツ、ウェストファーレン州ドライエルワルデに生れる。

1909年(明治42年)4月19日ギムナジウム卒業後イエズス会入会、オランダ、ファルケンブルク大学、イギリス、ストニハスト・カレッジに学び、インド、ボンベイのセント・スタニスラス・カレッジ講師

1918年(大正7年)第一次大戦に野戦病院看護兵として志願、北フランスの戦線に従軍

1920年(大正9年)ファルケンブルク大学聖堂にて司祭叙階。日本行きの募集があり志願

1923年(大正12年)8月25日横浜上陸、上智大学赴任。9月1日関東大震災。

1937年(昭和12年)7月20日上智大学第二代学長

1940年(昭和15年)歌劇「細川ガラシア夫人」創作、日比谷公会堂、大阪朝日会館にて上演

1945年(昭和20年)東京イグナチオ教会主任司祭

1969年(昭和44年)2月11日、日本政府は明治百年記念叙勲において、教育文化に尽した功績に対し、勲二等瑞宝章を贈る

1977年(昭和52年)6月9日帰天

ホイヴェルス師の言葉

上智大学学長としてどういう考え方で臨んだか聞かれ、

「わたくしは、上智大学を大きくしようとか、発展させようという気は一つもなかった。ただ、あやまりのないことを希望した」と、答えられた。

ホイヴェルス神父に南ドイツの友人が贈った詩

「最上のわざ」

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり、

働きたいけど休み、

しゃべりたいけれども黙り、

失望しそうなときに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架をになうー。

若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、

人のために働くよりも、謙虚に人の世話になり、

弱って、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であることー。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。

まことのふるさとへ行くためにー。

おのれを この世につなぐ鎖を少しずつはずしていくのは、

真にえらい仕事ー。

こうして何もできなくなれば、それを謙遜に承諾する。

神は 最後にいちばんよい仕事を残してくださる。

それは祈りだー。

手はなににもできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人のうえに、

神の恵みを求めるためにー。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」とー。

ー 故 粕谷コトの枕辺にいつも置かれていた祈り ー (中沢恵美)

NYリハビリテーション研究所の壁に書かれた一患者の詩

この詩はニューヨーク市立大学のリハビリテーションルームに刻んであったもの。作者不詳。ベトナム戦争で心身ともに深く傷つきながら、立ち直っていった若者が書いたらしい。原題は、"A Creed For Those Who Have Suffered"。(苦難を負っている人たちへの告白) 今は、ニューヨークの物理療法リハビリテーション研究所で、待合室で待つ人々が読めるように受付の壁に掲げられている。

(原文)

"A Creed For Those Who Have Suffered"

(Answered Prayer)

I asked God for Strength,
that I might achieve,
I was made weak,
that I might learn humbly to obey ...
I asked for health,
That I might do greater things,
I was given infirmity,
That I might do better things...
I asked for riches,
That I might be happy,
I was given poverty,
That I might be wise...
I asked for power,
That I might have the praise of men,
I was given weakness,
That I might feel the need of God...
I asked for all things
That I might enjoy life,
I was given life,
That I might enjoy all things...
I got nothing that I asked for-
But everything I had hope for;
Almost despite myself,
My unspoken prayers were answered.
I am among all men most richly blessed.
(Unknown Confederate Soldier HERITAGE)

< 苦難を負っている人たちへの告白 >

大事をなそうとして
力を与えてほしいと神に求めたのに
慎み深く従順であるようにと
弱さを授かった
より偉大なことができるように
健康を求めたのに
よりよきことができるようにと
病弱を与えられた
幸せになろうとして
富を求めたのに
賢明であるようにと
貧困を授かった
世の人々の賞賛を得ようとして
権力を求めたのに
神の前にひざまづくようにと
弱さを授かった
人生を享楽しようとして
あらゆるものを求めたのに
あらゆることを喜べるようにと
生命を授かった
求めたものは何一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられた
神の意にそわぬ者であるにもかかわらず
心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた
私はあらゆる人の中でもっとも豊かに祝福されたのだ

(上記 異訳・意識)

大きなことを成し遂げるために

力を与えてほしいと神に求めたのに

謙虚を学ぶようにと 弱さを授かった

偉大なことができるように

健康を求めたのに

よりよきことをするようにと 病気を賜った
幸せになろうとして

富を求めたのに

賢明であるようにと 貧困を授かった
世の人々の賞賛を得ようとして

成功を求めたのに

得意にならないようにと 失敗を授かった
求めたものは何一つとして与えられなかったが

願いはすべて聞き届けられた

神の意に添わぬ者であるにもかかわらず

心の中の言い表せない祈りは

すべて叶えられた

私は 最も豊かに祝福されたのだ

幸福のレシピ

(ある新聞に載っていた「幸福の調理法」)

<材料>

愛をカップ 5杯

やさしさをカップ 3杯

誠実をカップ 2杯

寛容をスプーン 5杯

希望をスプーン 3杯

思いやりをスプーン 2杯

ユーモアをスプーン 2杯

感謝をカップ 1杯以上

スパイスとして笑顔少々

<作り方>

まず、愛をベースにし、やさしさと誠実を用意し、そこに寛容と希望を入れてよく混ぜる。次に、おもいやりとユーモアを入れて、さらによくかき回す。その上に感謝をたっぷりとふりかける。これはすべて自らの体温で焼くが、焼きながら笑顔のスパイスをまぶすのがポイントである。

この調理法は、各人各様好みにあわせて、いろいろな味(個性)を作り出すことが出来るが、出来上がった味の名は「感性」という。

「アメリカインディアンの教え」 - 子どもたちはこうして生き方を学びます -

- * 批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします。
- * ひやかしを受けて育った子は「はにかみや」になります。
- * ねたみを受けて育った子は、いつも悪いことをしているような気持ちになります。
- * 敵意に満ちた中で育った子は誰とでも戦います。
- * 心が寛大な人の中で育った子は我慢強くなります。
- * ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります。
- * 思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます。
- * 仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます。
- * はげましを受けて育った子は自信を持ちます。
- * 公明正大な中で育った子は正義心を持ちます。
- * 人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします。

ドロシー・ロー・ノルト (Dorothy Law Nolte)

家庭教育に生涯を捧げる教育家。40年以上にわたって家族関係についての授業や講演を行い、家庭教育の子育てコンサルタントを務めている。三人の子どもを持つ母親。二人の孫の祖母であり、ひ孫も五人いる。南カルフォルニアに暮らす。ノルトとハリスは友人として、教師として、30年近いつきあいがある。

「子どもが育つ魔法の言葉」

(Children Learn What They Live - Parenting to Inspire Values -)

PHP研究所 1999.9/20 第1版第1刷発行 2000.5/2 石井千春 = 訳

<子は親の鏡>

- * けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
- * とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
- * 不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
- * 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
- * 子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
- * 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
- * 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- * 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
- * 広い心で接すれば、キレる子にはならない
- * 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- * 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
- * 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
- * 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
- * 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
- * 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
- * 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
- * やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
- * 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
- * 和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる